

子どもたちに豊かな音色を

「3つの楽器から奏でられる音色は、豊かで奥深いものです。私自身が幼い頃から、箏や三絃（三味線）を続けてきたのも、この音色に魅せられてきたからです」と笑顔で『三曲』の魅力を教えてくださいました狩野さん。

三曲とは、日本の伝統楽器である『箏』と『三絃（三味線）』、『尺八』を用いて演奏される管弦音楽の総称で、日本に古くから普及してきた音楽です。

狩野さんが会長を務める登別三曲協会は、三曲のさらなる普及や発展を目的に、市内に住む箏や尺八の指導者などが流派の垣根を越えて昭和48年に発足。同協会では、子どもたちに日本の伝統音楽の持つ美しさを肌で感じ取ってほしいという思いから、市内の各小学校



▲登別三曲協会会員から教えてもらいながら、楽器を演奏する子どもたち（幌別西小学校）

で邦楽鑑賞会を行ってきました。

「目の前で演奏される伝統的な音楽を聞くだけではなく、実際に楽器を演奏する授業は、道内では登別市だけだと思います。短い時間ではありますが、子どもたちはいつも目を輝かせながら、音を奏でていきます」。

三曲は身近な音楽

狩野さんは、邦楽鑑賞会に参加する子どもたちの中で箏を見たことがある人は数える程度で、また、登別三曲協会の会員数も減少傾向にあることも教えてくれました。

「今では、日本に住んでいても世界中の音楽を聞くことができず。さまざまな文化や音楽にふれることも大きなことではありませんが、江戸時代から受け継がれてきた楽器が織りなす奥深い音色はなものにも代えがたいものです」。

11月11日(日)に鷺別公民館で開催する『三曲演奏会』では、「三曲を聞いたことがない方も身近に感じてもらえるよう、どこかで聞いたことがある有名な曲も演奏するので、多くの方に足を運んでいただきたい」と話す狩野さんは、さまざまな場で三曲の魅力を伝えていきます。



KIRARI

か り の み ち こ

狩野美智子さん(若草町)

市内各小学校では平成4年から小学6年生を対象に、『箏』と『三絃（三味線）』、『尺八』の3つの楽器で奏でる音楽を身近に感じてもらうとともに、伝統的な楽器に触れ、豊かな心を育てることを目的に『邦楽鑑賞会』を行っています。

今号では、邦楽鑑賞会で演奏や指導を行っている登別三曲協会の会長である狩野さんに、これまで長きにわたって子どもたちに伝えてきた思いについてお聞きしました。

日本で古くから好まれてきた音色を次世代を担う子どもたちへ



昭和27年、虻田町（現洞爺湖町）生まれ。66歳。幼い頃から、箏の手解きを受ける。結婚を機に、登別市に移り住み、昭和58年、登別三曲協会に加入。平成27年、同協会の会長に就任。市内で箏と三絃の教室を開く傍ら、小学校で行われる邦楽鑑賞会や市民文化祭などで、三曲の魅力を発信している。雅号は、狩野雅美都。